

Design of townscape using design code -for local community-

Department of Infrastructure Systems Engineering

1075077

Madoka Yamasaki

Abstract

In recent years, the house is designed with emphasis on privacy. The boundary of the house was vague before. However, there is a boundary of the house now, and the chance to meet the person by chance has decreased. Therefore, it is difficult to meet even if it live in vicinity. Moreover, a regional community doesn't exist in the residential quarter newly developed. Therefore, it becomes the stable of a self-concluding house.

Thus, the chance of human touch with the resident in the vicinity decreases by the concluded house's standing in a row. Then, when the house is congested and it queues up, it is thought that the introduction of the design code in which a regional community is improved is necessary.

The rule to bring each element together is defined as the design code. And, it aims to propose the design code to which an excellent living environment can be built when houses gather.

These purposes are proposed through two competitions.

1. "Omote+Ura"

- "NAGAHAM · KANEBOUCHOU urban planning" house and a meeting place design competition-

The proposal here is as follows.

The community that centered on the road that had been installed in the border line of lot was made by using the design code for a regional community "Roji" and "Free space". And, the street where the material in the region had been used was made by using the design code for the street "Niwa", "Gaiheki", and "Stained glass".

2. "Toorinukenomachi"

- "The 22nd time a country traffic minister prize house · urban planning" design competition ~

The proposal here is as follows.

The road and the place for the community to tie were made by using the design code for a regional community "Connected road" and "Engawa". And, the continuous street that was and connected was made by using the design code for the street "Midori", "Machiya", and "Ishibari".

修士設計要旨

デザインコードを用いた街並みの設計 -地域コミュニティのために-

社会システム工学コース 1075077

山崎 円

目的・構成

今、住宅づくりというのはプライバシーを確保するというところに視点を置いて設計されており、家の内と外との境界が半開放的であった昔と比べて、いくつもの敷居が設けられ、偶発的に人と出会うチャンスが少なくなり、隣近所でもインターフォンを押して「わざわざ」訪ねて行かなければ顔を合わすことが難しい状態にある。また、新しく開発されている住宅地等においては、もともとの地域コミュニティが存在していない上に、地域に対して自己完結的な住宅の集まりでしかないので、自分達の敷地の中だけでの生活になってしまっている。このように、単体として完結した住宅が並ぶだけでは人間的な触れ合いの機会が失われる一方であり、密集して建ち並んだ時に、地域コミュニティを高めることができるデザインコードの導入が必要ではないかと考えた。

そこで、それぞれの要素を全体としてまとめていくための一定の規則をデザインコードと定義づけ、住宅が集まった時に良好な住環境ができるようなデザインコードを提案して設計し、地域でのコミュニティを高めていけることを目的として、本修士設計に取りかかることにする。

本修士設計は以下のような構成となっている。

1.では、「長浜・かねぼう町まちづくり」住宅・集会所設計コンペを通じて、新しく開発される住宅地における地域コミュニティの提案を行う。2.では、第22回 国土交通大臣賞すまい・まちづくり設計競技を通じて、町の再生と地域コミュニティの活性化の提案を行う。そして、3.では2つの設計競技を通じて得られた、デザインコードを用いた地域コミュニティについて述べることにする。

概要

オオテ+ウラ

「長浜・かねぼう町まちづくり」住宅・集会所設計コンペ

テーマ 地域特性を生かした緑のある街並み形成に寄与する住宅および集会所の設計

課題地 滋賀県長浜市鐘紡町字一ノ江入 157-13 他

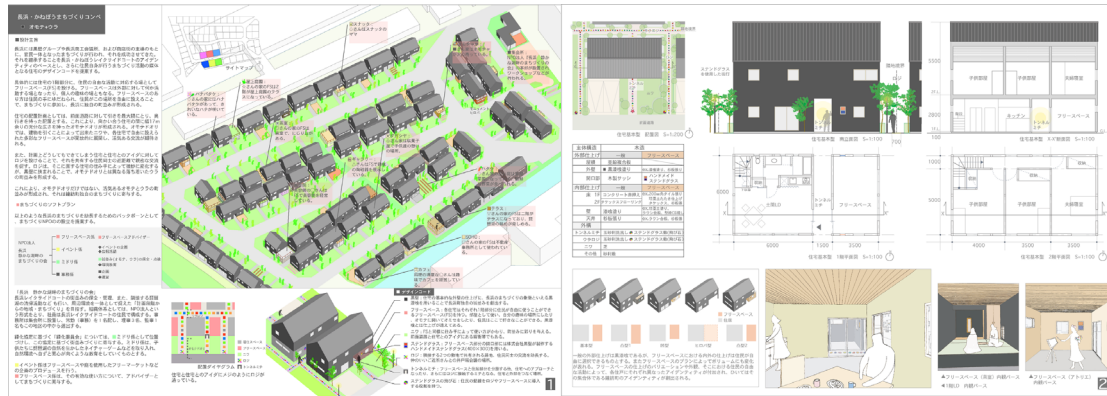
主催 長浜まちづくり建築設計コンペ運営委員会

提案

「ロジ」「フリースペース」という地域コミュニティのためのデザインコードを使用して、

敷地境界線に設けたミチを中心としたコミュニティをつくり、「ニワ」「外壁」「スタンドグラス」という街並みのためのデザインコードを使用して、地域の材料を使用した街並みをつくるという提案を行った。

提出作品



通り抜けのマチ

第 22 回 国土交通大臣賞すまい・まちづくり設計競技

テーマ 鹿島神宮門前町の再生をめざしたまちづくり

課題地 茨城県鹿嶋市宮中地内（鹿島神宮の門前町としての大町、仲町、桜町、角内の一部 約 9.18ha）

主催 まちづくり月間実行委員会/(財)住宅生産振興財団

提案

「つながる道」「縁側」という地域コミュニティのためのデザインコードを使用して、コミュニティをつなげるためのミチや場所をつくり、「みどり」「町家」「石貼り」という街並みのためのデザインコードを使用して、連続性のあるつながる街並みをつくるという提案を行った。

提出作品

